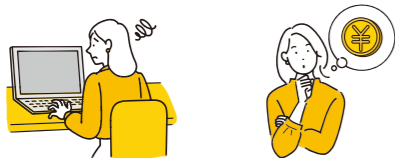


ケイエールの3つのポイント

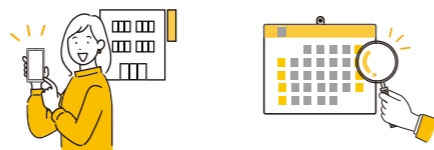
① 資金繰り把握

- 各金融機関の法人IBに都度ログインするのが面倒
- 外出先でも口座残高や入出金履歴を確認したい
- 先々の入出金が見える化したい



ケイエールで、できること!

- 複数の金融機関口座の残高や入出金明細を一覧表示
- 事務所のパソコンだけでなく、スマホやタブレットでも閲覧可能
- カレンダー形式で先々の入出金予定を簡潔に見える化



② ファイル保存

- 電子帳簿保存法に対応したい
- 書類の整理に手間や時間がかかる



- 簡単操作で電子取引等のデータ保存に対応
- 容量無制限でクラウド上に保存。取引先や日付等での検索も可能



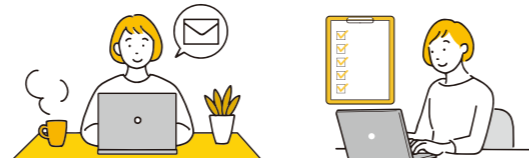
※ ケイエールでは、電子帳簿保存法の「電子取引」および「スキャナ保存」にかかる書類（請求書・領収書等）保存に対応していますが、帳簿（仕訳帳、元帳等）・書類（決算関係書類）の電子保存には対応しておりません。

③ 電子請求書対応

- 紙で請求書を作成しており、手間や時間がかかる
- 請求から入金確認までの進捗管理が煩雑



- インボイス制度に対応した請求書等を電子発行し、そのままメールで送付
- 請求書等の作成～送付～入金チェックまでを一元管理



中小企業の皆さまと、しんきんをつなぐデジタルサービス。

ケイエール

ケイエール

寺田 幸政（株式会社テラダ）
飯田 収（飯田時計精機株式会社）
藤原 秀之（株式会社藤原電子工業）

増加中/
まちのいいカオ。

父から引き継いだ町工場 「ケイエール」を軸に経営効率化を図る

株式会社テラダ × ケイエール

1935年の創業以来、大阪の町工場で精密金属部品加工を行う株式会社テラダ。先代が病に倒れ、急遽社長を引き継いだ寺田幸政さんが、まず改革に着手したのは帳簿の整理でした。法令遵守を重視し、ミスなく漏れなく入出金管理を行うためには、デジタル化が欠かせない。ケイエールの導入により何が変わったのかを訊きました。

01. ケイエール導入のきっかけ

ザ・昭和な帳簿管理を ケイエールで一新

弊社は祖父が創業し、父が20代で引き継いで切り盛りしながら、80数年続いてきた製造業です。私は大学を卒業して24年間、公務員一筋でしたが、「50歳までには戻ってこい」と言われていたこともあり、3年前に総務担当として入社しました。時間をかけて父から経営を学んでいこうと考えていたのですが、私が入社した矢先に父が手術をすることになり、その後の回復が思わしくなく、そのまま亡くなってしまいました。会社にきてわずか3年

で社長となった私は、前職の公務員時代の教えとして、まずきちんと法令を守り、正しい経営をして従業員の生活を守ることが先決と考えました。

しかし、いざ経営者視点で会社の内部を見始めると、驚きました。昭和の会社さながら、帳簿類はすべて手書き。請求書はコピーを紙で管理し、紛失すれば把握もできない。あまりにも非効率でリスクが高いと感じました。クラウド型の会計ソフトなども検討しましたが、費用もかかるし、どれも難しそう。なかなか踏み切れなかったところ、信用金庫からケイエールを勧められ、軽い気持ちで試すことにしました。



株式会社テラダ

1935年、東大阪で創業。旋盤やマシニングによる高い切削加工技術を有し、真空装置や極低温冷凍機などの精密金属部品加工を行う。中でも薄物と呼ばれる、繊細な金属加工に定評がある。2019年、大阪ものづくり優良企業賞受賞。2023年、寺田幸政氏が代表取締役社長に就任。2024年、健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)認定。



02. ケイエール導入の効果

明日お金が足りない! 青ざめる前に先手を

町工場の場合、職人さんがそのまま社長を務めているケースが多いと思います。その場合、経営のプロでもないし、数字にも苦手意識がある。うちの父もそうでした。私が社長になった頃、執務スペースは段ボールの山。重要な書類がどこにあるかもわからない有様でした。そこへ来て、電子帳簿保存法やインボイス制度などへの対応が迫られていて。この散らかった状態をなんとか整理できれば。そんな思いでケイエールを導入しました。

新しいものを扱うときはいつもそうですが、マニュアルを読み込んだところで、細かいところは使いながら覚えていくしかありません。幸い、ケイエールはデザインが優れているので、操作はすぐに覚えられました。

特に便利だと感じたのが、入出金管理の機能です。次にどんな振り込みがあり、いつ支払いがあるのか、

カレンダーで一覧化できるため一目瞭然です。会社の財務状況をこのページだけで見通せることは、経営上の大きな安心感につながりました。恥ずかしながら、過去には一時的に資金がショートすることもあったんです。資金繰り表によって先の入金予定は見えているのですが、間をつなぐ資金が足りない。そのことがわかった時には、信用金庫に相談し、短期融資を受けることができました。これがもし紙ベースで管理していたら、気づくのが遅れ、「あと2日後にお金が足りない…」となっていたことを想像するとゾッとします。こんなスピーディーな対応ができるのは、ケイエールを提供しているのがメインバンクである信用金庫だからこそだと思います。



にとっては安心要素のひとつでした。お金の移動に関わる部分は、持ち出しできない会社のパソコンで管理した方がいい。しかし入出金の確認は、いろんなところでできると便利です。実際に、移動中や出張中などにも、入出金管理ページはよく確認しています。毎朝、仕事始めに最初に見る画面がケイエールで、それはどこにいても変わりません。

実は一度、私自身が入院を余儀なくされたことがありました。急でしたので、準備もままならず。その時にも、「とりあえずタブレットだけ持って来て」と社員に伝えて、病室からケイエールを確認していました。この時ばかりは、導入しておいて良かったと心から思いましたね。

「使ってよかった」 不意の入院時に思う

インターネットバンキングのように直接ケイエールから振り込みができるわけではないですが、それも私

03. 今後の活用と自社の展望

10年後 社員全員で笑うために

信用金庫とのやりとりも、以前より増えましたね。最初はケイエールの使い方について、ケイエール問合せフォームを通じてしょっちゅう疑問を投げていましたが、対応スピードが速く、電話での折り返しもあり、心強かったです。デジタルという言葉に拒否反応がある方もいるかもしれませんが、デジタルも人が作り出すもの。ケイエールはFace to Faceを大事にする、信用金庫らしい血の通ったサービスだと感じます。こちらの要望に対してシステムを改善して応えてくれた例もあり、中小企業の味方という信用金庫の姿勢を感じますね。

これまでは、会社の代表としての



役割に不慣れだったこともあり、土日も関係なしに出勤して、不安をどこかに押しやるようにあくせく働いていました。でも今は先の見通しが良くなって、計画が立てやすくなりましたね。時間ができたことでプライベートも充実し、仕事にも気力を持って臨める。そうすると、こちら

から仕掛けていく新規事業なども考えられるようになります。

私の役割は、社員とその家族の生活を支えていくこと。できれば、10年後は社員全員で笑っていたい。そのために、必要なツールは積極的に導入して、前を向いて経営していきたいと思っています。

経理処理はパートさんに任せ 取締役としてやるべきことに注力する

飯田時計精機株式会社 × ケイエール

仕事は手作業でほぼ完結し、社内にあるパソコンはわずか1台。そんな町工場にも、否応なしにDX化の波は押し寄せてきます。電子帳簿保存法への対応も急務となる中、信用金庫担当者よりタイミングよく勧められたケイエール。渡りに船とばかりに導入を決めた飯田収さんは、その後の社内の変化を実感していました。

01. ケイエール導入のきっかけ

銀行がFAX入金中止 否応なくデジタル化へ

弊社は、精密機械の加工からスタートした企業です。現在は社員30名、3つの工場を稼働させて事業を営んでいますが、これまで代表を含めてパソコンを有効活用できる者は一人もいませんでした。例えば、お客様からの請求書は手書きでまとめ直し、送金も銀行で用紙に記入してFAXするといった運用でした。お客様によって締日が異なるため、請求書を受領するタイミングもバラバラで、手間がかかります。かつ、紙での管理だと探し出すのも一苦労

で、紛失のリスクもあります。

私は、世代的にもコンピュータに拒否反応はなく、大学のレポートなども簡単な数式を活用したりと、パソコンで作業が楽になる経験をしていました。2021年に私が入社してすぐ、銀行がFAX入金の取り扱いを停止し、対応を迫られました。まずはインターネットバンキングを導入し、それだけでも効率化は目に見えていたため、DX推進を私が真っ先に取り組む優先課題に。そんな折、信用金庫の担当者よりケイエールを勧められ、キャンペーン期間中に始めればリスクも少ないことから、導入を決めました。



飯田時計精機株式会社

1948年、大阪府八尾市にて創業。社名の通り、時計修理から事業を開始。修理時に使う精密部品の製造も手がけ、精密機械加工業として発展。1970年の大阪万博の好景気を製造側から支え、自動車や自転車関連部品など大阪から世界へ羽ばたく各メーカーに部品を供給している。現在、社長・飯田博さんの息子である、取締役の飯田収さんが社内DXを推進中。



02. ケイエール導入の効果

請求書スキャンは 70代の社員にお任せ

まず、触ってみた感覚としてケイエールはわかりやすくデザインされているので、操作が難しいと思ったことはありません。現時点でもっとも活用しているのは、ファイル保存機能です。お客様からの請求書をスキャンして取り込み、決められた場所に保存する。シンプルなことですが、これが大きな余剰時間の捻出に繋がりました。というのも、ケイエールを導入するまでは、私が自らスキャンして管理していたからです。導入後はパートの方でもできる簡単な作業になり、今は70代の経理担当の社員に任せています。彼女もパソコンに触った経験はほとんどありませんでしたが、簡単な作業なのですぐに覚えていただけました。結果、私自身が請求書管理の仕事から離れられるようになり、3つある工場を見て回ったり、営業や見積りの仕事にも時間を充てられるようになりました。取締役として、やるべきこと

03. 今後の活用と自社の展望

先代が遺した会社を 時代と共に進化させる

信用金庫の担当者とは、しんきんdirect[※]を通じて何度も相談させていただきました。使い方について教えてもらったり、まだサービスができたばかりだったこともあって「もっとこういった機能が欲しい」など、要望もずいぶん聞いていただきました。すべてを反映いただけるわけではないですが、親身になって相談に答えていただけるのは、ありがたいことです。請求書の発行と連動した入金チェック、資金繰り把握など、まだまだ使いこなせていない便利な機能も多く用意されているので、これからさらに積極的に活用したいと考えています。

弊社はデジタル化という意味では

に集中できるようになったこと。これが弊社でのケイエール導入の一番のメリットです。

口座連携に関しても、信用金庫ともう一つの取引銀行の2金融機関分を連携させています。インターネットバンキングの場合、過去の出入金履歴が2か月程度しか保存されず、いざという時に確認できずに困ることが多々ありました。ケイエールで口座連携をしておけば、過去2か月以上の出入金履歴を確認できます。その安心感は大きいですね。

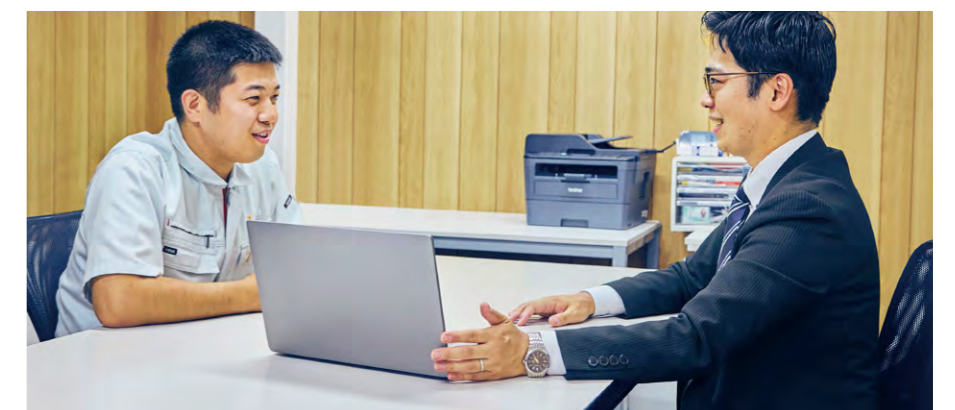
製造現場全体の DX化を目指して

請求書の発行については、現在も自社で用意したExcelを活用しています。うちのような製造業は部品点数が多く、ひとつずつ単価の違うものが数百点もあります。そのため、製品データのマスターをExcelで作り、そのシートを更新しながらずっと使ってきました。番号を入力



すれば、登録した単価が自動で入力されます。現状でも使い勝手は良いのですが、ここも将来的にはデジタルツールを導入し、作業効率を向上させたいですね。

また全社的なDXという意味では、ケイエールで削減できた時間を使って、在庫管理にもデジタルツールを入れていきたいと考えています。現状では、小さな部品を1個単位で把握できていません。在庫を厳密に管理できないと不良在庫にもつながりますし、あと何個出荷するためにいつから製造を始めたかといった、製造計画にも影響します。ケイエールの導入を機に、これら製造現場全体のDX化も図りたいと思っています。



まだまだ歩みの遅い企業で、ケイエール導入後もまだ私とパート1名でしか活用できていません。それでも社内の改革につながっていく予感があります。製品を作ることから出荷するまで、業務を一元管理できるシステムを取り入れることで無駄を徹底的になくし、お客様にとっても

利益が出るような形にできると、DXはとても意味があるものになります。社長や先代が守ってきた会社を、私も守るだけでなく、さらに発展させていくためには、デジタルを活用した生産性の向上が鍵になる。その時、ケイエールは強い味方になってくれると思います。

※ しんきんdirect：信用金庫とお客様間における信用金庫業界専用のチャットツール

「ケイエール」を活用した先に見えてきた、 時間にゆとりのある会社経営の姿とは

株式会社藤原電子工業 × ケイエール

既存の事業基盤が強固でも、そこにあぐらをかいてはいけない。前のめりに新規事業に挑戦する藤原電子工業は、デジタル化にも積極的です。創業者の父から引き継ぎ、現在は社長を務める藤原秀之さん(写真左)と妹で経理担当の藤原めぐみさん(写真右)が、ケイエールの導入により起きた変化や期待について語ってくれました。

01. ケイエール導入のきっかけ

生産性向上に向けて デジタル化が急務

秀之さん：弊社は、1993年に私の父が仲間とともに4人で立ち上げた会社です。私も子供の頃から父の仕事ぶりを見て、ものづくりに興味を持ち、大人になるにつれて父の仕事を手伝いたい気持ちが強くなりました。社員の一人として働くようになり、去年の創業30周年のタイミングで、私が取締役を務めることになりました。現在は、社内の改革を進めている最中です。半導体業界は盛り上がっているように見えますが、プリント基盤製造の需要は減少

傾向にあります。これまでお客様に信頼を得てきた金型製作やプレス加工技術は活かしつつ、今後の生産性向上は必須。そのため手段として、業務のデジタル化は優先度の高い項目でした。

めぐみさん：私は福祉関係の仕事から15年ほど前に転職して、今は総務や経理を担当しています。入出金の入力や管理など、私一人でExcelなどを使ってきましたが、経理については素人で専門的な教育を受けたわけではありません。信用金庫の担当者からケイエールを紹介いただいた時は、すぐに試してみたいと思いました。



株式会社藤原電子工業

1993年創業。金型製作技術とプリント基板プレス加工技術の強みを活かし、パリやホコリが出ない独自のSAF金型工法を開発。他に産業ロボットの開発なども行なっている。現在はゴルフ練習場の運営など、既存領域に捉われないユニークな事業を展開中。2009年、大阪ものづくり優良企業賞。2018年、経済産業省「地域未来牽引企業」認定。



02. ケイエール導入の効果

手入力より信頼できる 安心感がもたらすもの

秀之さん：弊社の特徴として、中国やベトナムから来た外国人スタッフが多いことがあります。彼らはおしなべて優秀で、日本人よりも高給を取っている外国人社員もいるのですが、彼らにもっと活躍してもらうためにも、働きやすくわかりやすい業務管理体制が必要です。そういう観点で社内を見回してみると、デジタルに対する苦手意識が気にかかりました。製造業ですので業務内でパソコンを使うのは、CADなど専門的なものだけ。しかし今後、デジタル化の波は業務のあらゆるところに影響するはず。そういう全社的なDX化に向けての最初の一步として、ケイエールの導入を決めました。

めぐみさん：ケイエールを導入して私が感じた一番のメリットは、資金繰りが一目で管理できるようになったことです。Excelで入力していた頃は、1か月ごとに各社の請求書や入金予定を突き合わせて、表を

手入力で作成しないと行けません。事業の性質上、細かな請求書や入出金が多く、どうしても経理が複雑になります。しかし、例えば4か月後の手形の入力を忘れてしまったり、数字の入力ミスをするなど、当然起こり得ること。「いつか自分のミスにより会社に迷惑をかけてしまうんじゃないか」という不安が常にありました。ケイエールだと、売掛/買掛明細を登録するだけで、資金繰り表に自動で数値が反映されます。数か月先の資金繰り予測も把握できるようになり、とても助かっています。自分でやるのとは、信頼性と安心感が違いますね。



から1行ずつログインして見に行かなければなりません。ケイエールの導入によりその手間が省けました。それから、出張中など会社にはいない時にも、便利さを実感しましたね。資金繰り状況を確認する際、経理用のパソコン以外で確認するためには、いったんUSBメモリなどにデータをコピーして持ち出していました。しかし会社の機密情報ですから、メモリを持ち歩くことはセキュリティ上の不安がつきまとっていました。ケイエールでは、データは安全な場所にありながら、スマホなどのデバイスでいつでも確認できます。これにより、便利だけでなく、精神的な負担も軽減されましたね。

セキュリティ上の 不安からも解放された

秀之さん：口座連携機能では、信用金庫ともう1行の2金融機関分を連携させていて、双方の残高が気軽に確認できます。インターネットバンキングでは、経理用のパソコンでしか確認ができませんし、こちら

03. 今後の活用と自社の展望

気持ちのゆとりが 組織を円滑に回す

秀之さん：ケイエールによって生まれた時間のゆとりは、社員とのコミュニケーションに充てています。外国人の社員が多いこともあって、社員間の意思疎通には特に気をつけているんです。工場に降りて毎日声をかけたり、たまには食事に連れ出したり、敷地内でバスケットボールをしたり。一緒に身体を動かすと、人対人の付き合いができるようになりますね。

めぐみさん：私はいま子育て中なので時短勤務をしているのですが、経理作業などに追われてギリギリまで作業していることも多くありました。ケイエールの導入で作業負担が軽減されると、時間だけでなく、気持ちにもゆとりが生まれます。



だから、子供にもゆとりを持って接することができるようになったと思います。切羽詰まった母親の姿を見せるよりも、余裕のある母親でいたいからです、これはとても嬉しかったことです。

秀之さん：経営者としては、社員に負担がかかっている箇所を少しでも

減らし、より本質的な仕事や、より生産性を高めることに向かっていくことが、会社に付加価値をつけていくために必要と考えています。まだまだ十分に機能を使いこなしているとは言いがたいですが、今後ケイエールの持つ機能をさらに積極的に使いこなして、業務改善を続けていきたいですね。